



▲ 3月号の表紙に間に合いました 紅梅 (2月27日撮影・当山)



金光寺寺報
第213号
発行所 金光寺
宮崎県西臼杵郡
五ヶ瀬町大字鞍岡
5927番地
☎ 0982
83-2338

今月法語カレンダーのことば

われらは 善人にもあらず 賢人にもあらず

三月のことばは、親鸞聖人の『唯信鈔文意』というご著作のなかにあり、「私たちは、善人でもなければ、賢人でもない」と示されています。

私たちは、ついつい善人の側に立とうとします。テレビのニュースを見ていると、毎日のように凶悪な犯罪が報道されます。そんなとき、「こんな犯人は厳罰にしろ」と裁くのが私たちです。しかし、同じような縁に触れたら同じことをしたかも知れないという、自分自身の怖さに気付いているのでしょうか。「やられたら、やり返す」では、恨みの連鎖にしかありません。

法然聖人は、「浄土宗の人は愚者になりて往生す」(『親鸞聖人御消息』注釈版聖典771頁)と述べられています。私たちは、この「愚者になる」ということがむずかしいのかもしれない。すぐに善人になりたがる

習性があるからです。

仏さまの智慧の前では、私は、愚者以外の何ものでもありません。仏さまの智慧に出会ったとき、愚者という私の本当の姿が知らされます。浄土真宗では、それを「機の深信」と称しています。そして、同時に「法の深信」といい、ご本願によって救われていく喜びに支えられた身でもあるのです。

「われらは善人にもあらず、賢人にもあらず」(『唯信鈔文意』同715頁)。この「愚者」の自覚こそは、「機の深信」という厳格な自己内省です。そして、それは、「法の深信」という喜びに支えられた歩みでもあるのです。これこそは、仏さまの智慧に出会った者が恵まれる、尊い生き方です。

(本願寺出版社刊「大乘」誌掲載
『月々のことば』より抜粋 転載)

仏事お休みのお知らせ

下記の日は緊急を除き、仏事は行いません。ご協力をお願いします。

- ◎ 3月 13日(水) 終日
- ◎ 3月 21日(木) 終日
- ◎ 3月 29日(金) 終日
- ◎ 4月 20日(土) 終日
- ◎ 5月 27日(月) 終日

2019年2月、次の金光寺門信徒の方がご往生なさいました。謹んでお悔やみ申し上げます。

- 2019年2月 2日 満83歳 様
祇園町 田中 淳子
- 2019年2月 4日 満88歳 様
丁子 梶原 アキミ
- 2019年2月 10日 満70歳 様
揚 古小路 幸男
- 2019年2月 17日 満81歳 様
木合屋 竊井 ツヨ子
- 2019年2月 20日 満77歳 様
波帰下 竊田 時義

ホームページ開いています。

URL <http://konkouji.jp/>

3月6日現在アクセス数 86,367人

なめなうあ首紙よま水楼ててのたかがね少わ足▼冬さよへれとこ春ま
つ(るにまをにうすをへみき苗水り見。なじがしはがるっまいののしめ
おて瓶の首り長すで。は鐘よた「」でれ水いわ心かう身もちすう冬花たっ
後しとはが長くるす七つ撞うこ通とすまがこと配しれにのや。こが々ねきり
がま亀困伸くし予。月たきとと販い。す満ととで、しこでら▼といの。り
(住よい)りびなて定咲ご瓶堂購のをえ▼よ々にけす田いたしで昔、か開そ春
職ろま)つも縮りおでいる(入思子ば「うとつ出。植ばえよしはうに花しら
ししたなのみす待すたにかのしいう、満にはなる降えかまうた少か暖がてし
松いたがですぎち。らはめ横まだシ昨々たらが雪雪時りす、が々が冬早いく
井よねりするてく▼寺開)にししが年と念れり解不期での最、のいだいつな
うで。のがよ亀だど報花が満た、送、はじ田まけ足のしで近加寒知っ様にな
話。うのい。のすあ々。育ら「らるんす水は水た、は齢さらた子なて
にかによ。で表るりと鐘てれ蓮ればぼよがし不。暖寒にはさかにく

仏教名言ノート

くせに世間を生きていき、

口中に大斧あり

「口は禍のもと」「口は禍の門」といふ諺があまりあります。うっかり吐いた言葉が、災難の原因になることがあるから、言葉を慎むべきである、という意味です。この諺の出典は種々挙げられていますが、『成語大辞苑』は中国の馮道の詩「古詩」の

口は是れ禍の門

舌は是れ身を斬るの刀を挙げています。

不用意な言葉が相手を傷つけたり、怒らせたりして、事件に発展することもなくはないのです。また、ちょっとした言葉の行き違いから、人間関係にひびが入ることもあります。仏教には十悪という戒めがあります。そのうち四項目が言葉に関する悪で、

- 綺語(うわべを美しく巧みに飾った言葉)
- 妄語(嘘をつくこと)
- 悪口(汚いのしり)
- 両舌(二枚舌)

「正法念処経」は、「人世間に生ま

れてより、口中に大斧あり。以てもし自他を聴れば、口中に悪語出す」と説きます。

それは、「人間は生まれながらにして、口中に大きな斧をもっている。その斧で他人を切るならば、それは悪口となる」という意味です。つまり、人はしらすしらすの間に、生まれながらにして、口中にもっている大きな斧で他人を傷つけている、恐ろしいことですね。

(本願寺出版社発行 辻本敬順著 「仏教名言ノート」から)

任職ひとりごと